

新刊案内

貸出し中の本は予約することができます。
HP・お電話でもできますので、詳しくは
カウンターまでおたずねください。

Yってというのはヤングアダルト (YA) の意味。

『僕は上手にしゃべれない』

椎野 直弥／著 ポプラ社 [Y913 シ]

吃音の悩みをかかえ、中学に入学した悠太。入学式の日には、当然自己紹介があるっていうのはわかっていたが…。著者自身の経験をもとに、吃音に苦しむ少年の葛藤と希望を描いた胸を打つ物語。



新刊コーナーにあるよ。

『生きづらさを抱えるきみへ』

withnews編集部／著 ベストセラーズ [Y371 イ]

命を絶つぐらいだったら、学校になんか行かなくなってもいい。学校だけが人生ではないから。キンタロー。をはじめ、蛭子能収、寺坂直毅らの意外な過去とともに“逃げ方”を紹介する。樹木希林の直筆メッセージも収録。



かりて、かりて

『カッコーの歌』

フランシス・ハーディング／著 東京創元社 [Y933 ハ]

あと7日。意識をとりもどしたとき、耳もとで言葉が聞こえた。わたしは池に落ちて記憶を失ったらしい。少しずつ思い出す。妹はわたしを憎んでいる。そしてわたしが偽者だといひ…。『嘘の木』の著者が贈るファンタジー。



【実用書】

『「文系?」「理系?」に迷ったら読む本』	竹内 薫／著	PHP 研究所	[Y002 タ]
『君たちの日本国憲法』	池上 彰／著	ホーム社	[Y323 イ]
『虫ざらいはなおるかな?』	金井 真紀／文と絵	理論社	[Y486 カ]

【文芸書】

『進撃の巨人』	諫山 創／原作	講談社	[Y913 コ]
『余物語』	西尾 維新／著	講談社	[Y913 フ]
『月の光を飲んだ少女』	ケリー・バーンヒル／著	評論社	[Y933 ハ]

*大竹市立図書館のホームページの中にティーンズコーナーがあります。
勉強や悩みにも役立つリンク等もあるのでのぞいてみてね。

*[]は図書館の請求記号です。

大竹市立図書館ティーンズ便り 13号

〒739-0605 大竹市立戸1丁目6-1 ☎ 0827-52-5338



■利用案内

- ・開館時間 10:00~18:00 (火~土) / 9:00~17:00 (日)
- ・個人貸出 図書1人8冊 (内DVD・CD資料2点)
- ・貸出期間 2週間
- ・休館日 月曜日 (祝日の時は翌日も)・祝日・年末年始・特別整理期間
毎月末 (ただし、土・日・月・祝の時は直前の金曜日)

ホームページアドレス (蔵書検索もできます) <http://www.tosho.otake.hiroshima.jp/>

スマートフォンをお持ちの方は
こちらのQRコードからもホーム
ページにアクセスできます。



大竹市立図書館には、ティーンズコーナーがあるのを知っていますか?
ティーンズコーナーでは、ティーンズ向けの本の展示をしています。春・夏・秋・冬の年4回、入替えているのでチェックしてみてください。

☆『夏』(6・7・8月の展示)

テーマは、

家族&現実 (リアル)

です。

ちょっと真剣に考えてみる?ちょっとおもいかなあ……。

たとえばこんな本はいかが?「家族」



『青空のかけら』

S.E. デュラント／作、杉田 七重／訳 鈴木出版 [933 テ]

児童養護施設スキリー・ハウスで暮らす身寄りのない姉弟ミラとザックのいちばんの願いは、「家族」ができること。そしてある夏、チャンスが訪れる…。イギリスからとどいた、愛と信頼の物語。

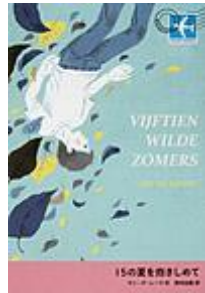
現実（リアル）展示本リスト

家族展示本リスト

★家族ってなんだ？いろいろな家族の形があることを知ってもらいたい。
家族と暮らせない、そんな事情だってあるんだ。



『アブリランディを探して』
メリーナ・マーケッタ／作 岩波書店 [Y933 マ]
高校生のジョセフィン・アブリランディはイタリア系オーストラリア人で、お母さんは未婚の母。それだけでも日常はじゅうぶん複雑なのに、一度も会ったこのなかった実の父親が突然現れて…。



『15の夏を抱きしめて』
ヤン・デ・レーウ／作 岩波書店 [Y949 レ]
トーマスは15歳で死んだ。元恋人のオルフェー、母親、祖父にはまだ彼の姿が見える。トーマスも、現実を受けとめきれないオルフェーや、崩壊寸前の家族を静かに見守っている…。愛と悲しみ、過去と現在が織りなす物語。



『明日の子供たち』
有川 浩／著 講談社 [913 ア]
想いがつらなり響く時、昨日と違う明日が待っている！やる気は人一倍の新任職員、理論派の熱血ベテラン、“問題のない”16歳、大人びた17歳…。児童養護施設を舞台に、仕事の壁、将来の夢、恋の行方などを描く。

他にもこんな本があります♪

『おれのおばさん』	佐川 光晴／著	集英社	[Y913 サ]
『祭りの夜、川の向こう』	吉来 駿作／著	幻冬舎	[Y913 キ]
『死にたい、ですか』	村上 しいこ／著	小学館	[Y913 ム]
『トリガー』	いとう みく／著	ポプラ社	[Y913 イ]
『深く、暗く、冷たい場所』	メアリー・D.ハーン／作	評論社	[Y933 ハ]

『いのちのパレード』 八束 澄子／著 講談社 [Y913 ヤ]

福里中学2年の万里は、同じ2年のセナから「妊娠した」と告白を受ける。万里にほのかな思いを寄せるクラスメイトの勇馬、仕事で忙殺される中で妊娠した勇馬の姉…。思春期の心情によりそう青春小説。



『島はぼくらと』

辻村 深月／著 講談社 [913 ツ]

瀬戸内海の小さな島、冴島。朱里、衣花、源樹、新の4人は島に高校がないため、フェリーで本土に通う。未婚の母の涙、Iターン青年の後悔、そして自らの淡い恋心…。17歳、ともに過ごす最後の季節を描く。



『むこう岸』

安田 夏菜／著 講談社 [Y913 ヤ]

有名進学校の授業についていけず、公立中学に転校した少年と、父を亡くし、生活保護を受けて暮らす少女。2人が直面する、「貧しさゆえに機会を奪われる」ことの不条理…。中3の少年と少女は、いかに貧困に立ち向かうのか。



他にもこんな本があります♪

『掏摸(スリ)』	中村 文則／著	河出書房新社	[913 ナカ]
『列車はこの闇をぬけて』	ディルク・ラインハルト／作	徳間書店	[Y943 ラ]
『わたしは13歳、シリア難民。』	国境なき子どもたち／編著	合同出版	[Y369 ワ]
『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ』	アンジー・トーマス／作	岩波書店	[Y933 ト]
『少年たちの戦場』	那須 正幹／作	新日本出版社	[Y913 ナ]
『ぼくは牛飼』	サンドラ・ニール・ウォレス／作	さ・え・ら書房	[933 ウ]

★現実（リアル）はひりひりしている。直面するかしないかはまだ分からない。
もしこんな立場だったら…。あなたなら？